

ヤマハ株式会社
2017年3月期
第1四半期決算説明会

2016年 8月 3日



決算概要

- 対前年同期減収も大幅な増益 対前回予想では増収増益
1Qの営業利益は118億円となり、営業利益率は12.0%
売上高は、為替影響(▲88億円)及び音楽教室事業移管影響(▲42億円)を除く実質では対前年同期増収(106%)
- 楽器事業は、欧州、中国両市場が対前年同期実質二桁成長、
北米及びその他市場も堅調な推移で、対前年同期大幅増益、過去最高益
- 音響機器事業は、欧州及び国内市場が対前年同期実質二桁成長、
中国、北米市場も堅調、商品別には、AV、PA機器共に対前年同期実質二桁成長等で、
対前年同期営業利益倍増
- その他の事業は、対前年同期減収減益
- 業績の好調な推移により1Qで繰延税金資産135億円を計上、当期利益は大幅増益

※売上に関する「実質」という表記は、原則現地通貨ベースによるものです。

2017/3期 1Q業績概要



(億円)

	16/3	17/3	前期比	前回予想	前回予想比
売上高	1,055	984	▲6.8%	960	+2.5%
営業利益 (営業利益率)	89 (8.4%)	118 (12.0%)	+33.0%	85 (8.9%)	+38.5%
経常利益 (経常利益率)	85 (8.0%)	115 (11.6%)	+35.5%	85 (8.9%)	+34.9%
当期利益※ (当期利益率)	63 (5.9%)	225 (22.9%)	+259.7%	195 (20.3%)	+15.3%

為替レート (円)

売上高	US\$	121	108	110
	EUR	134	122	125
利益	US\$	121	111	110
	EUR	133	126	125

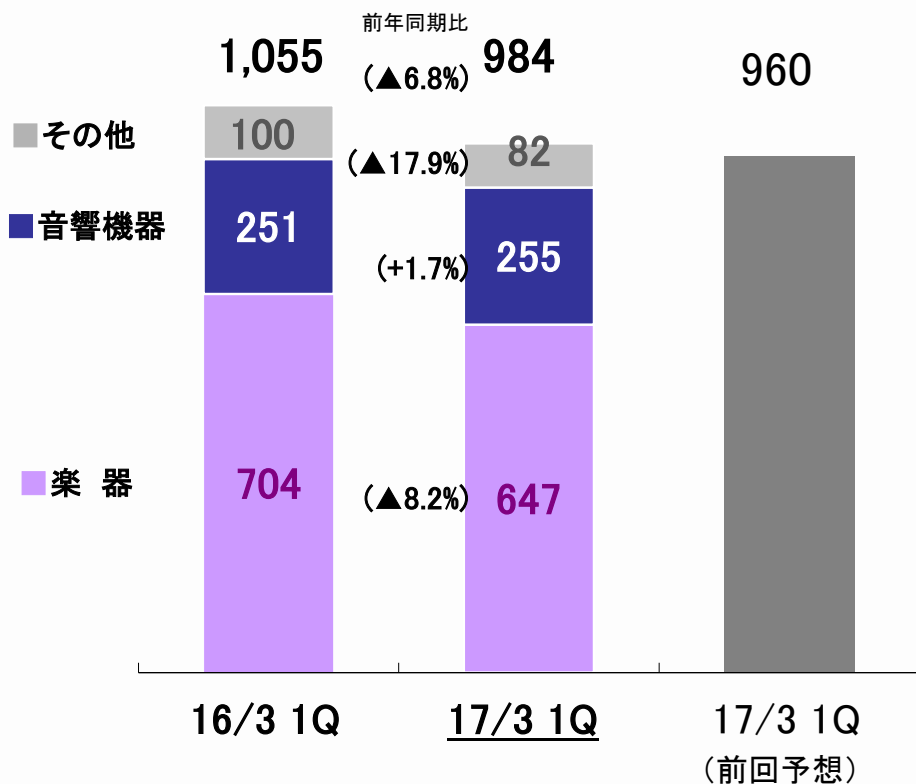
※連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」

●前回予想は2016/4/28 発表

2017/3期 1Q事業別業績



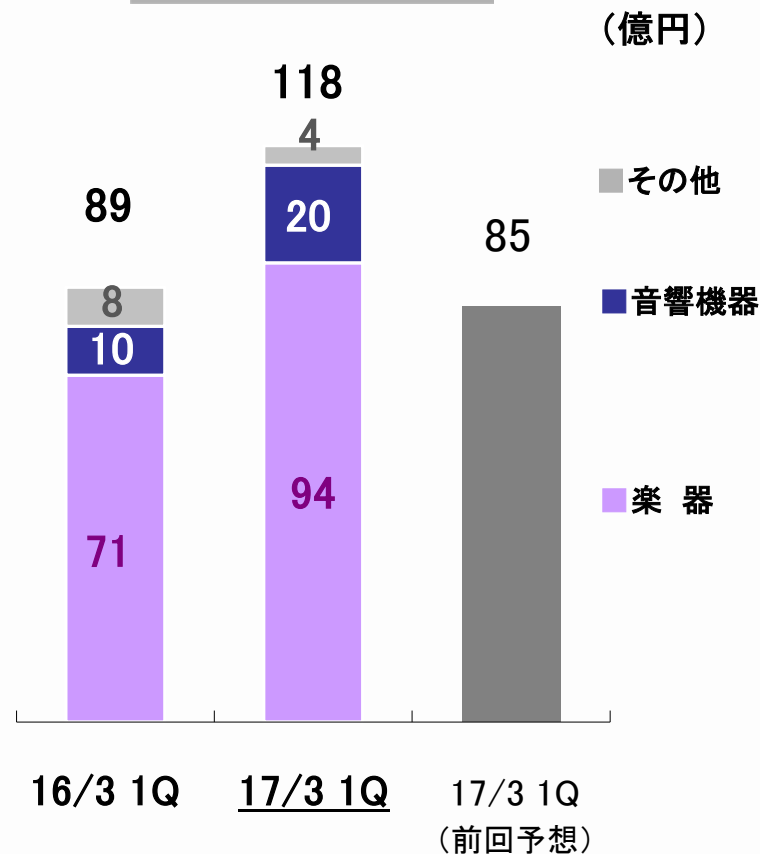
売上高



為替影響額 (億円)	
前期比較	▲88
前回予想比較	▲15

為替影響額 (億円)	
楽器	▲60
音響機器	▲27
その他	▲1
楽器	▲10
音響機器	▲5

営業利益

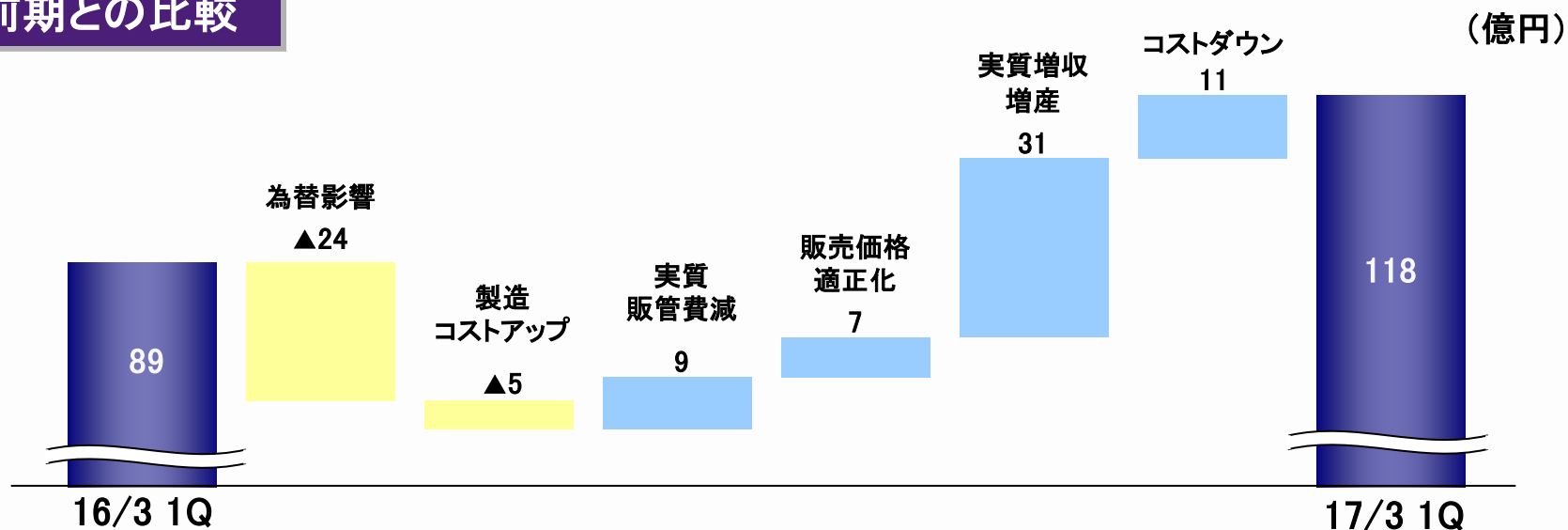


為替影響額 (億円)	
前期比較	▲24
前回予想比較	▲3

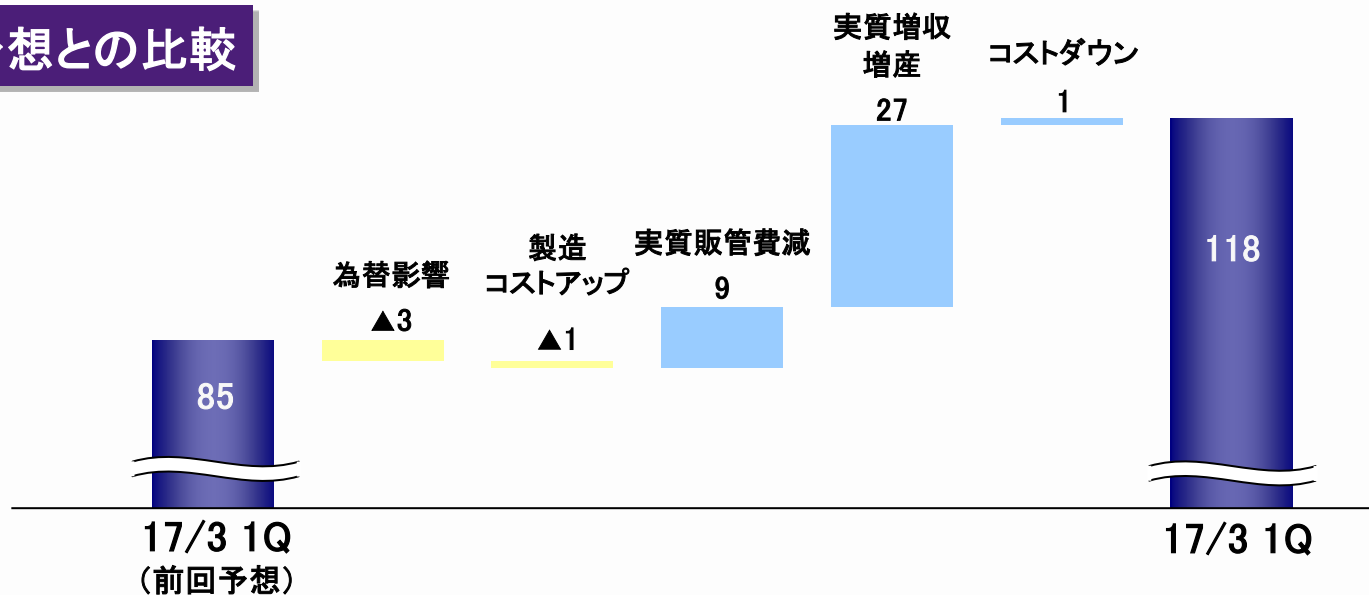
為替影響額 (億円)	
楽器	▲20
音響機器	▲4
楽器	▲2
音響機器	▲1

2017/3期 1Q営業利益増減要因

前期との比較



前回予想との比較



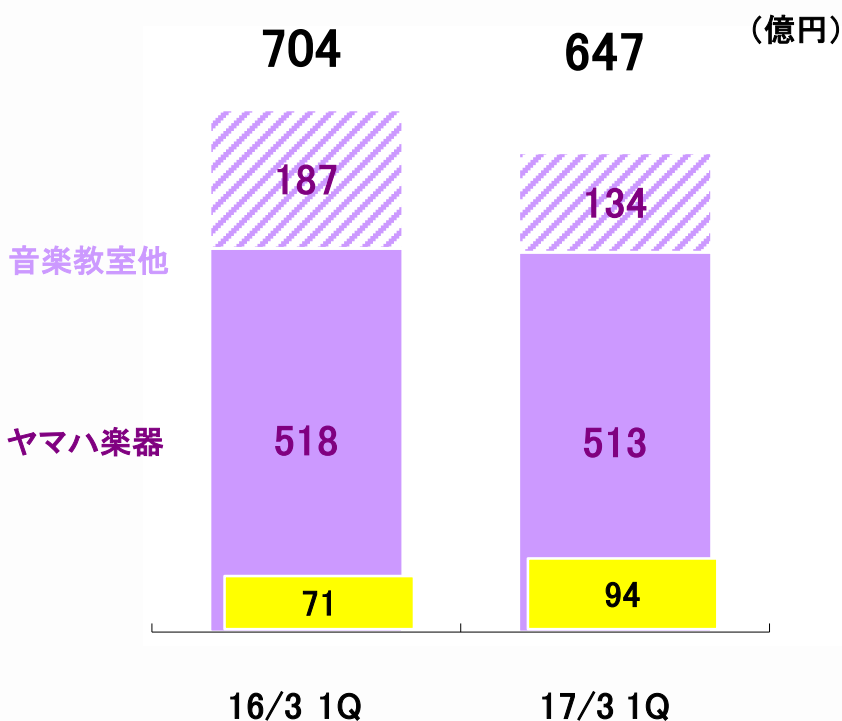
楽器事業 1Qの状況



1Q

■ 売上高

■ 営業損益



1Qの状況

- ・対前年同期、減収増益
- ・減収は、音楽教室移管と為替影響が要因
- ・市場別には、欧州、中国が実質二桁成長
北米、その他市場も堅調 国内製品は前期並み
- ・商品別には、ピアノ、電子楽器、弦打楽器が
実質二桁成長
- ・損益は、実質増収,販売価格適正化 販管費減等
で対前年同期増益

音響機器事業 1Qの状況

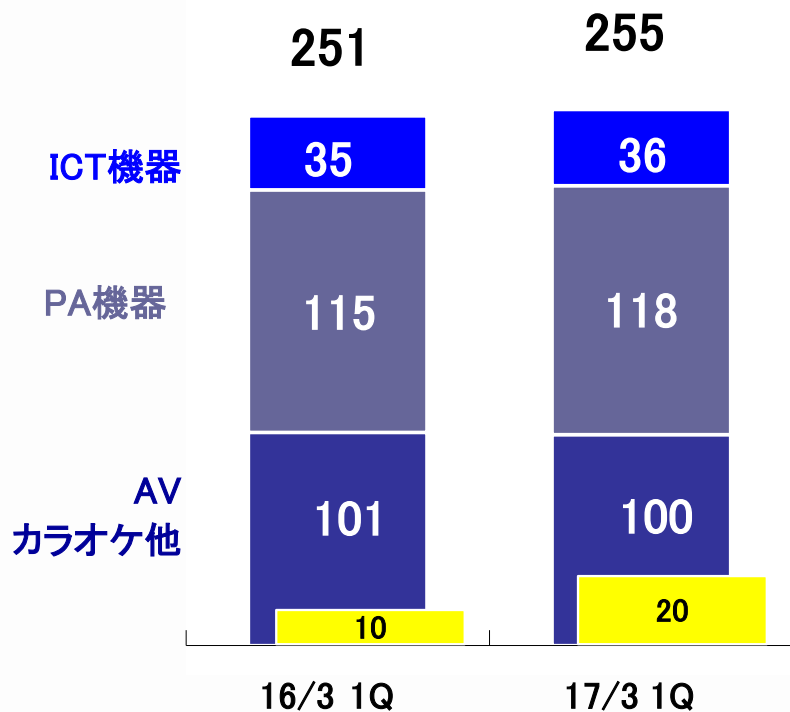


1Q

■ ■ ■
売上高

■ 営業損益

(億円)



1Qの状況

- ・対前年同期増収増益
- ・AV機器、PA機器共に対前年同期実質二桁成長
- ・市場別には、その他市場を除く全市場で好調に推移
- ・国内音響設備工事は、竣工前倒し等に対前年同期増収
- ・通信機器、カラオケ等も実質二桁成長
- ・損益は実質増収、コストダウン等により対前年同期倍増

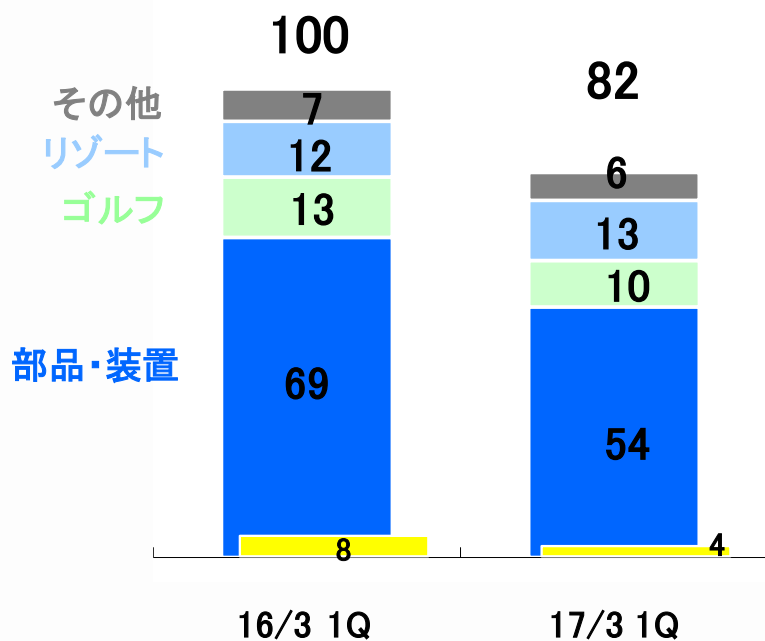
その他の事業 1Qの状況

1Q

売上高

営業損益

(億円)



1Qの状況

- ・対前年同期減収減益
- ・電子部品、自動車用内装部品、ゴルフが苦戦
- ・前年同期には電子部品でのアミューズメント用前倒し出荷等があったことも減収要因

* 部品・装置売上は電子部品 自動車用内装部品 FA機器等の合計額です

2～4Qの見通し

- 楽器事業は、好調な販売が継続し、前回予想に対し実質増収を想定
 - 音響機器事業も、AV機器、PA機器の実質成長堅持を想定
 - その他の事業は、電子部品の市況良化を想定するが、全体では前回予想通り
- 2Q以降の前提為替レートを、前回予想のUSDドル110円 ユーロ125円から
USDドル 105円 ユーロ 115円に変更する。(2Qユーロは121円で予約済)

通期の業績見込み

- 売上高については、1Qの好調な業績と2Q以降の増売により実質増収となるも
為替レート前提を変更することにより、前回予想の売上高 4,200億円を
4,110億円に修正する。
- 営業利益については、為替影響はあるものの、実質増収、販売価格の見直し、
コストダウンや販売管理費の抑制などで、前回予想の420億円を据え置き
対前期増益を維持

2017/3期 通期業績予想



(億円)

	16/3	17/3予想	前期比	前回予想	前回予想比
売上高	4,355	4,110	▲5.6%	4,200	▲2.1%
営業利益 (営業利益率)	407 (9.3%)	420 (10.2%)	+3.3%	420 (10.0%)	—
経常利益 (経常利益率)	409 (9.4%)	420 (10.2%)	+2.7%	420 (10.0%)	—
当期利益※ (当期利益率)	326 (7.5%)	455 (11.1%)	+39.4%	455 (10.8%)	—

為替レート (円)

売上高	US\$	120	106	110
	EUR	133	117	125
利益	US\$	121	106	110
	EUR	134	120	125

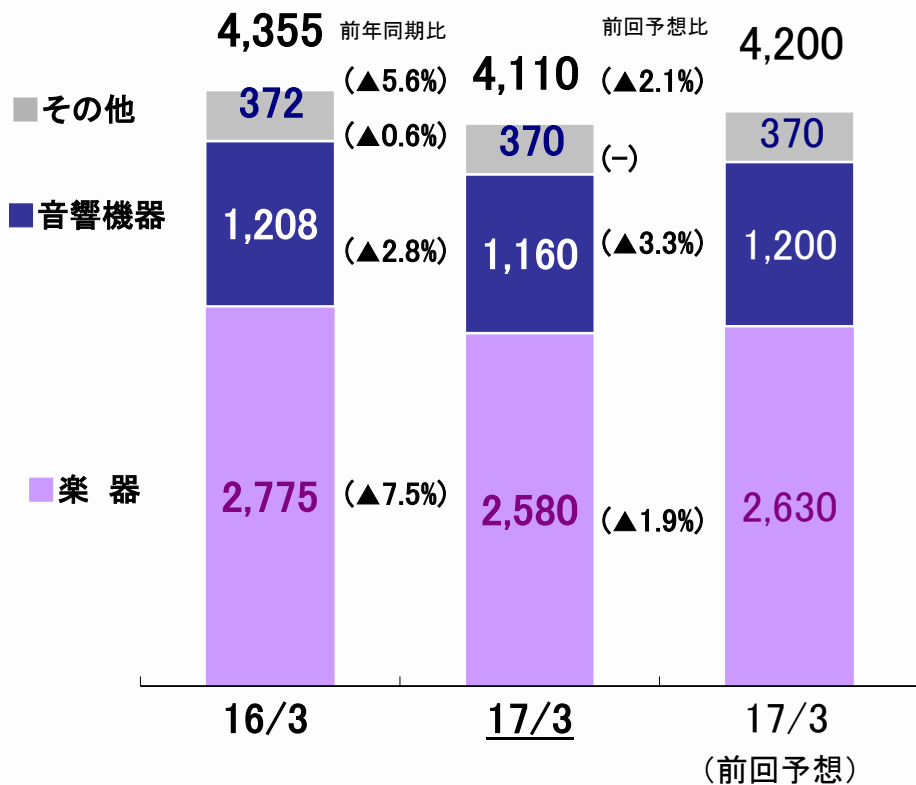
※連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する当期純利益」

●前回予想は2016/4/28 発表

2017/3期 通期事業別業績予想



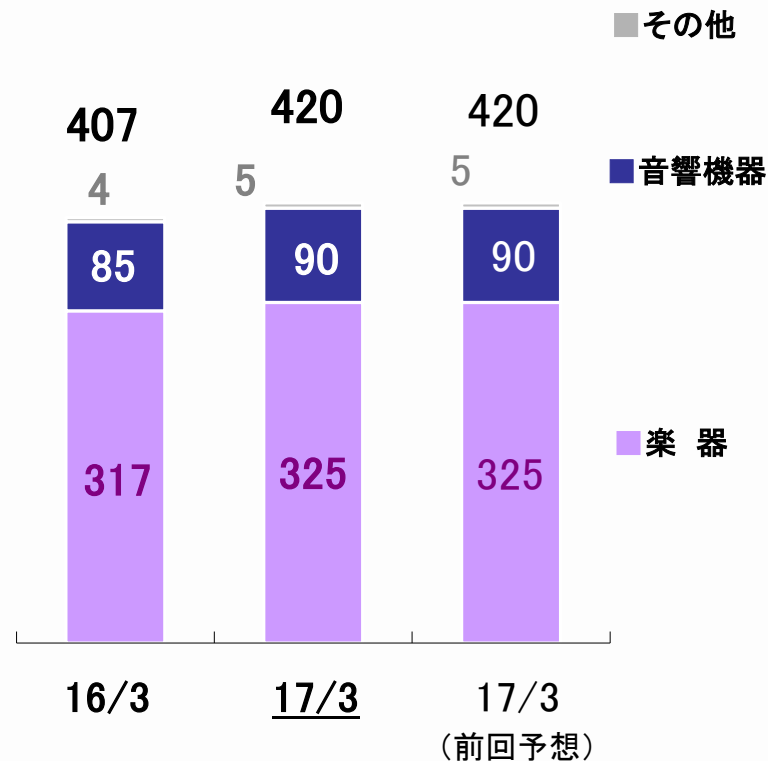
売上高



為替影響額 (億円)	
前期比較	▲413 楽器 ▲272 音響機器 ▲134 その他 ▲6
前回予想比較	▲169 楽器 ▲112 音響機器 ▲55 その他 ▲2

営業利益

(億円)



為替影響額 (億円)	
前期比較	▲128 楽器 ▲95 音響機器 ▲34
前回予想比較	▲56 楽器 ▲40 音響機器 ▲16

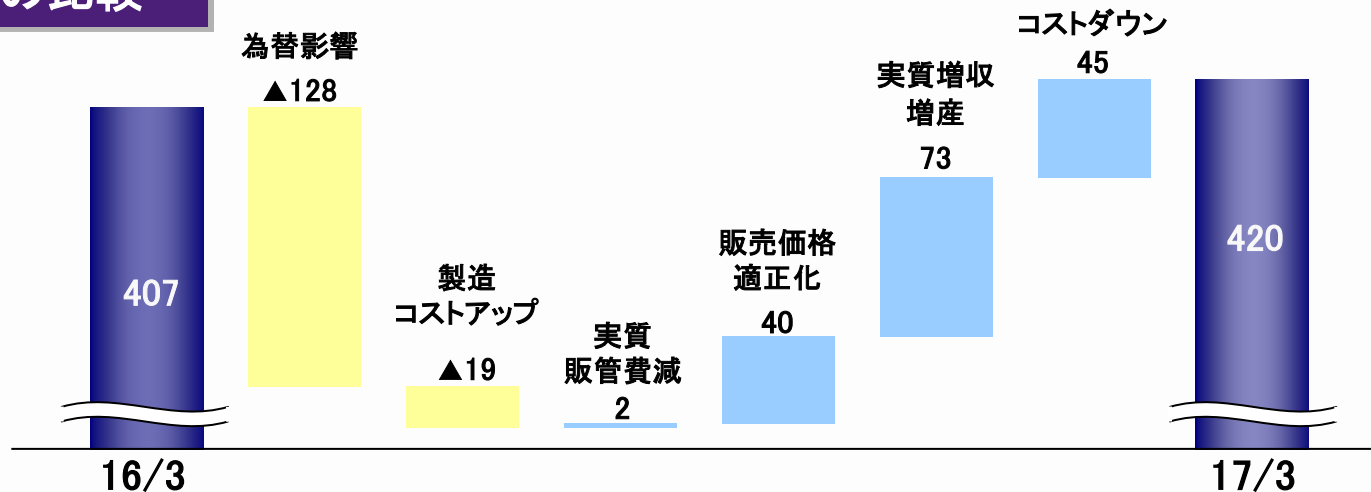
●前回予想は2016/4/28 発表 *16/3期実績は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

2017/3期 通期営業利益予想増減要因

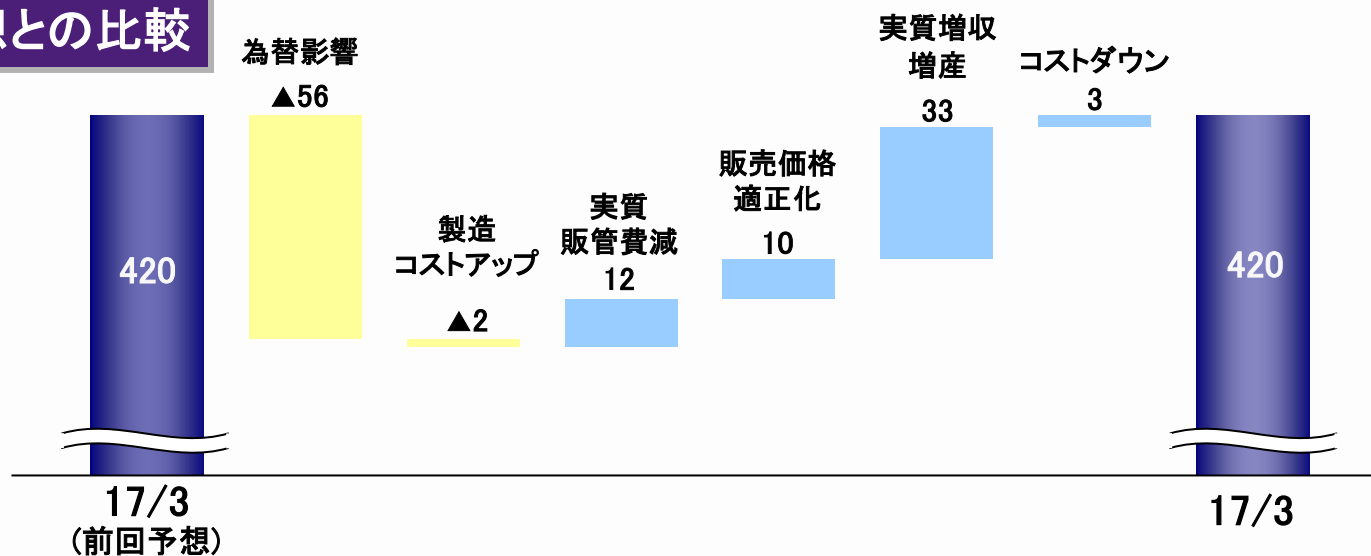


(億円)

前期との比較



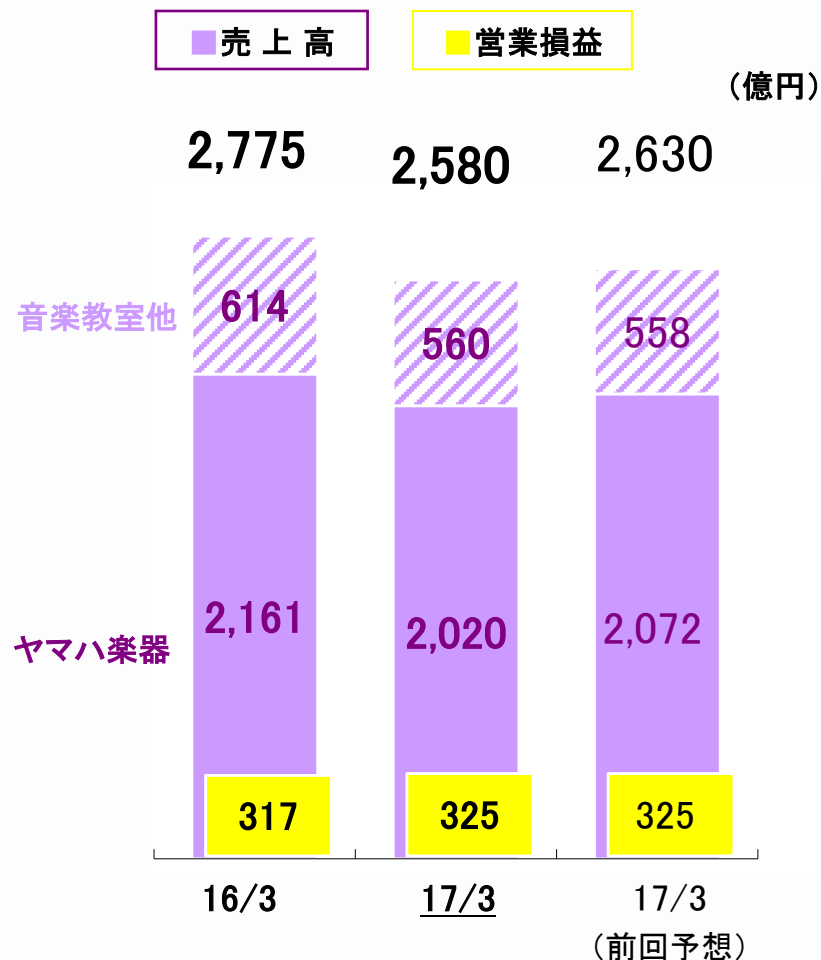
前回予想との比較



通期

通期予想

- ・対前期対前回予想共に減収も、損益は前回予想通り
- ・対前回予想減収は、前提為替レート変更が要因
- ・各市場に不透明感はあるが、堅調な販売継続を想定
- ・商品別では、ピアノ、電子ピアノ、ギターの実質成長を想定
- ・損益は、実質増収、販売価格適正化、販管費の抑制等で為替による減益影響を吸収



楽器事業(地域別の販売予想)

(ソフト、音楽教室等を含む)

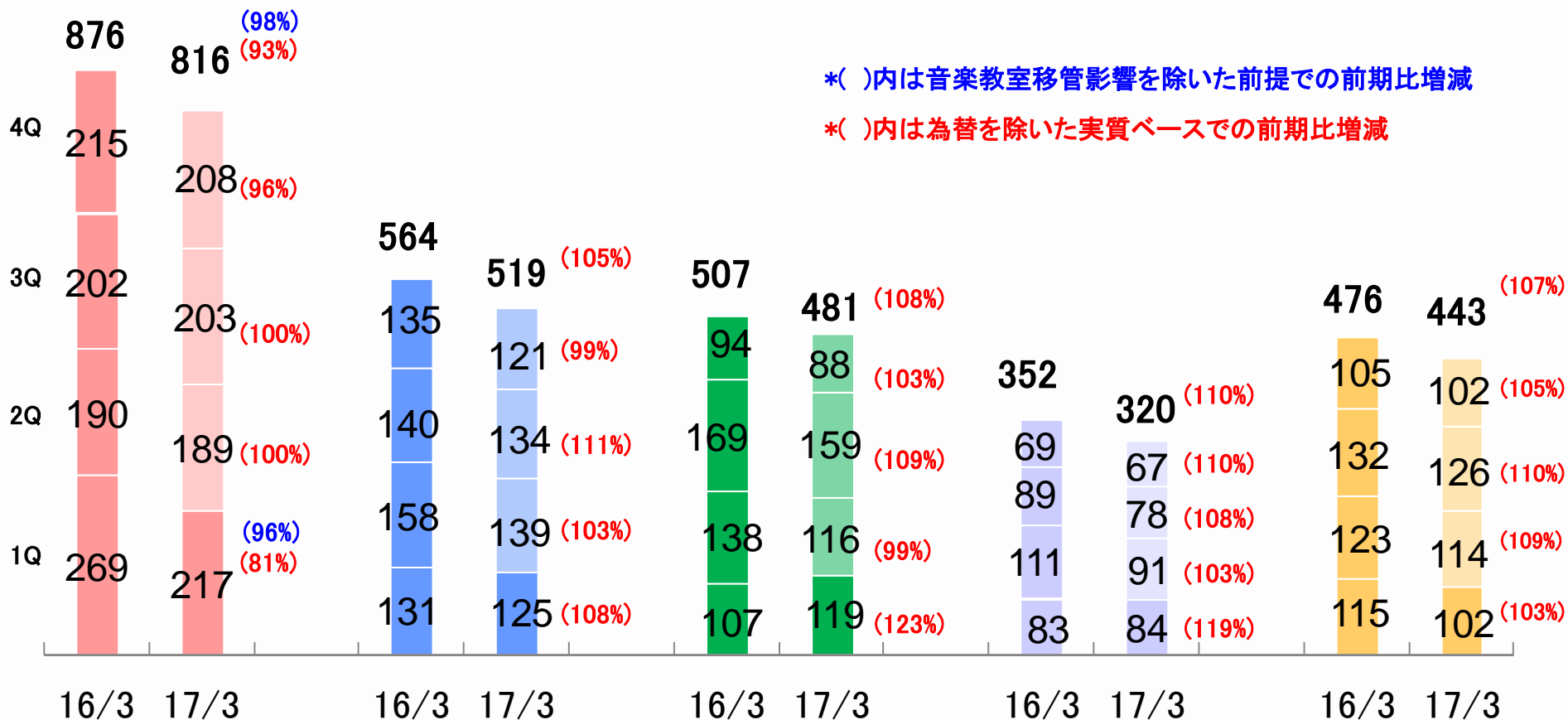


全市場計 1Q 売上高 647億円 (107%) 通期予想 2,580億円 (104%)

(億円)

* ()内は音楽教室移管影響を除いた前提での前期比増減

* ()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減



日本

北米

欧州

中国

その他

*16/3期実績は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

通期

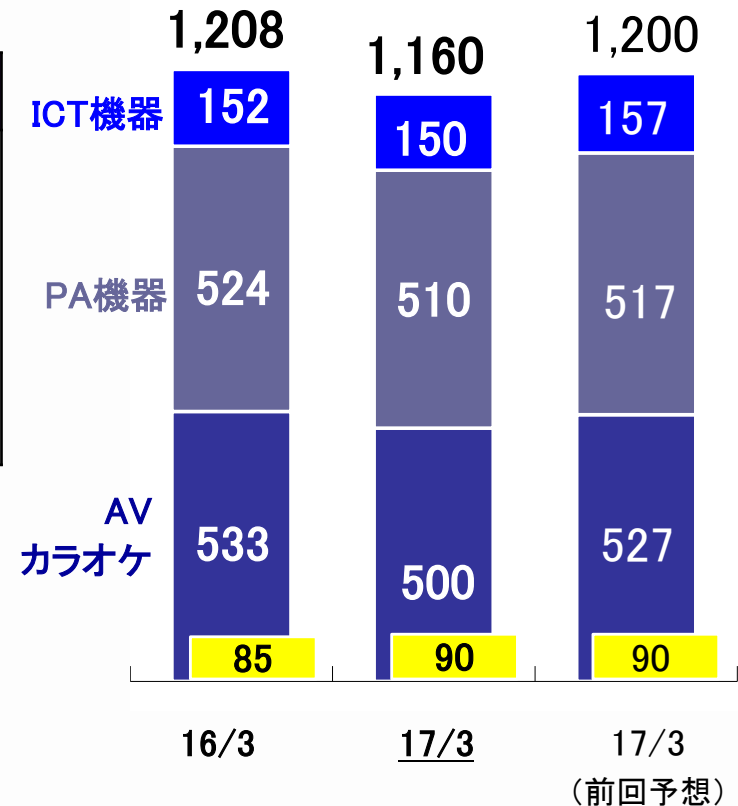
■ ■ ■
売上高

■ 営業損益

(億円)

通期予想

- ・対前期対前回予想共に減収も損益は前回予想通り
- ・対前回予想減収は、前提為替レート変更が要因
- ・AV機器、PA機器、ルーターの実質成長を想定
- ・損益は、実質増収、販管費の抑制等で為替による減益影響を吸収

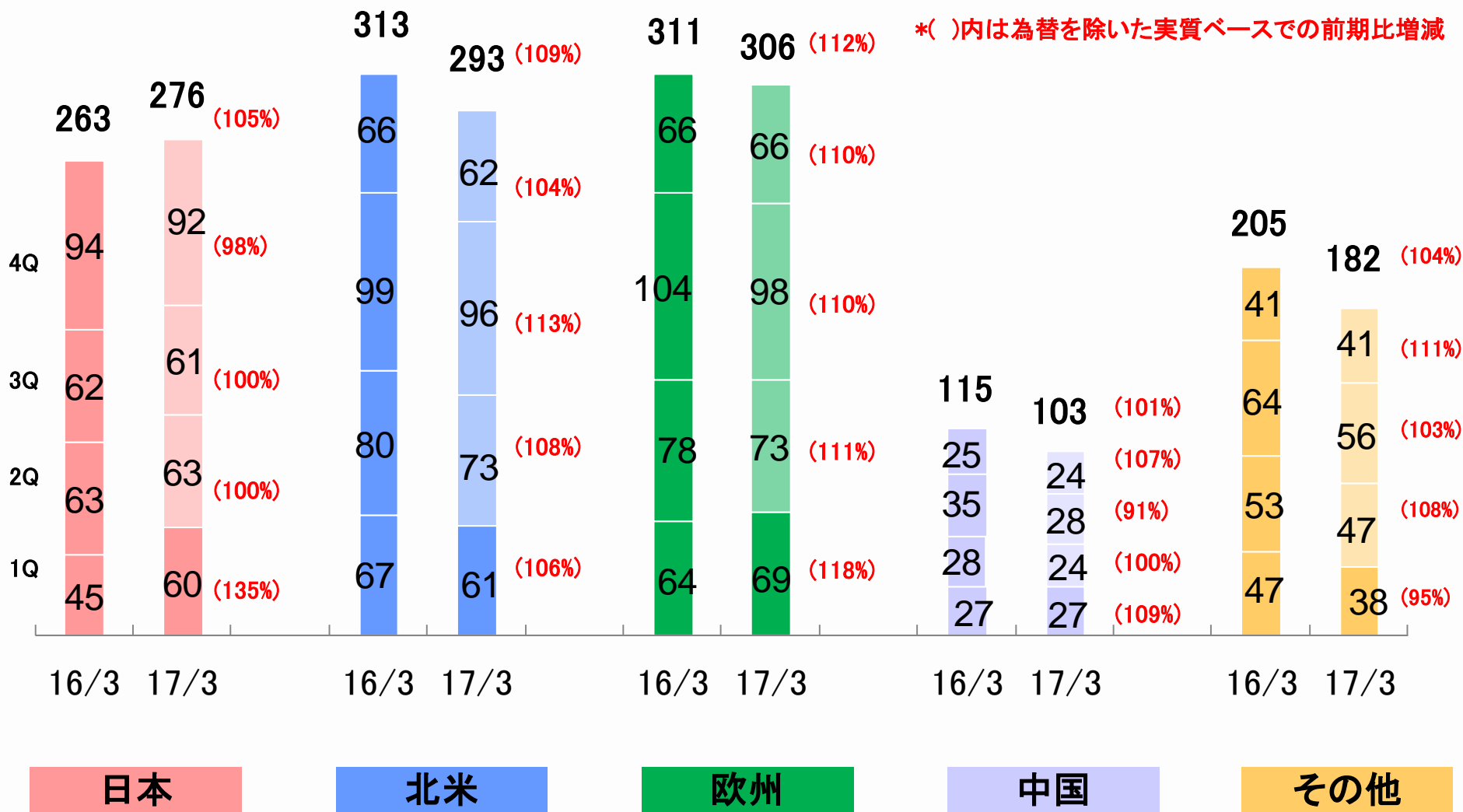


音響機器事業(地域別の販売予想)



全市場計 1Q 売上高 255億円 (113%) 通期予想 1,160億円 (107%) (億円)

* ()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減



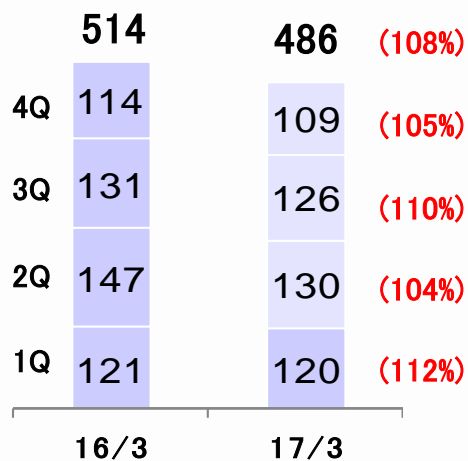
*16/3期実績は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

楽器・音響機器事業(主要商品別販売予想)

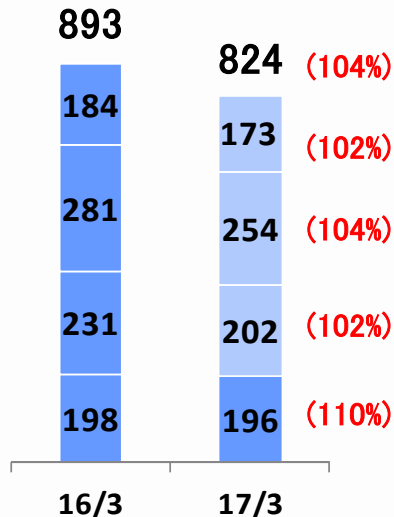


楽器事業

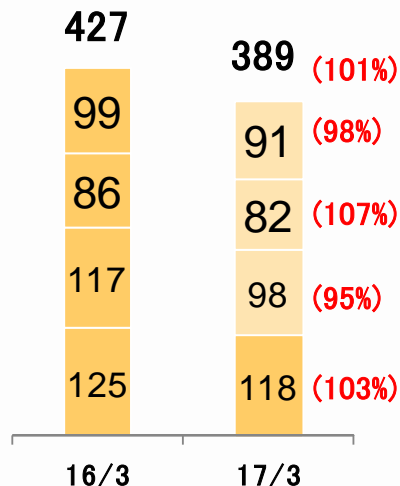
ピアノ



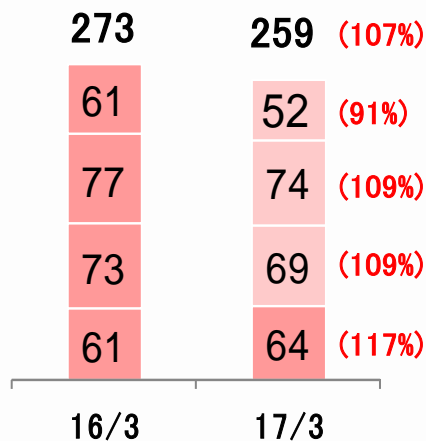
電子楽器



管楽器



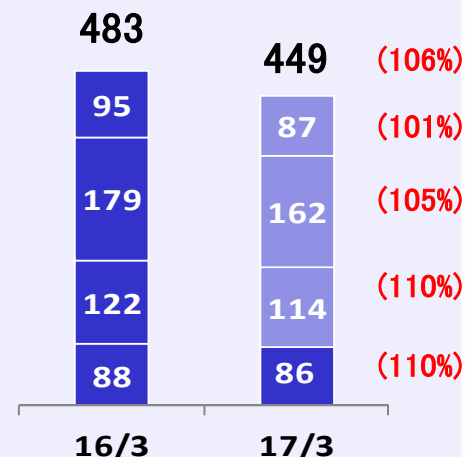
弦打楽器



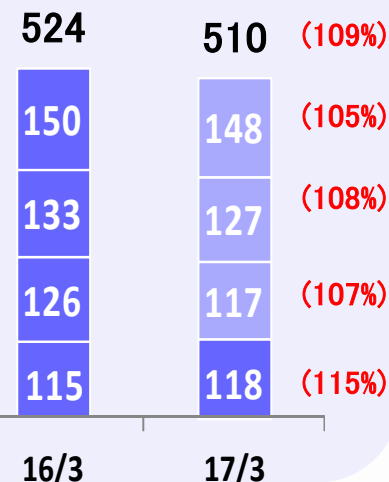
音響機器事業

(億円)

AV機器



PA機器



* ()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

その他の事業（予想）

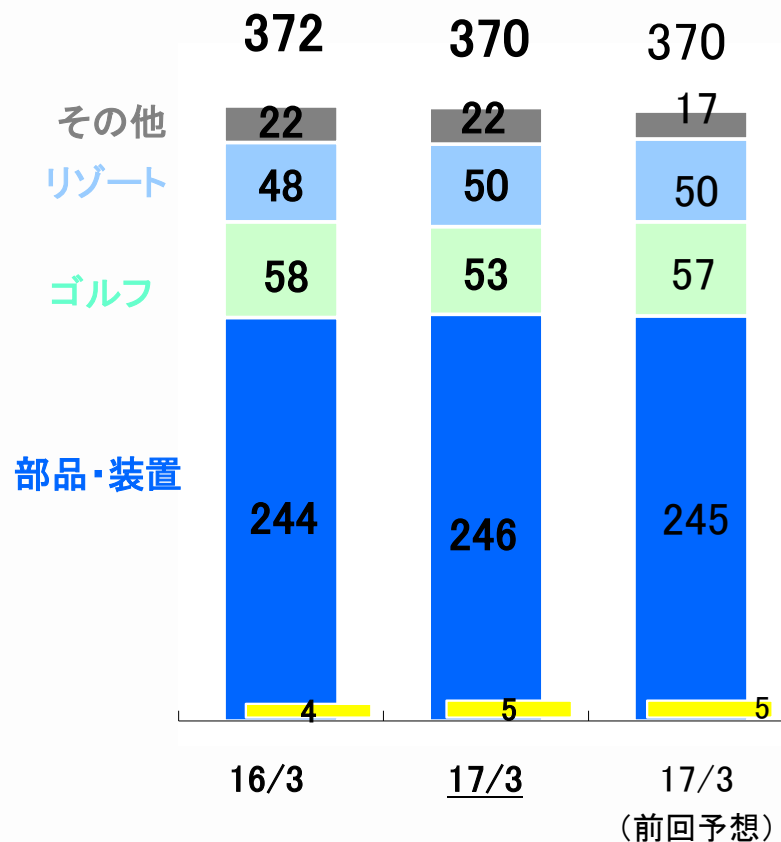


通期

売上高

営業損益

(億円)



通期予想

- ・前回予想を据え置き
- ・部品・装置では下期にアミューズメント向け電子部品の市況回復を想定
- ・ゴルフ、自動車用内装部品は対前期減収想定

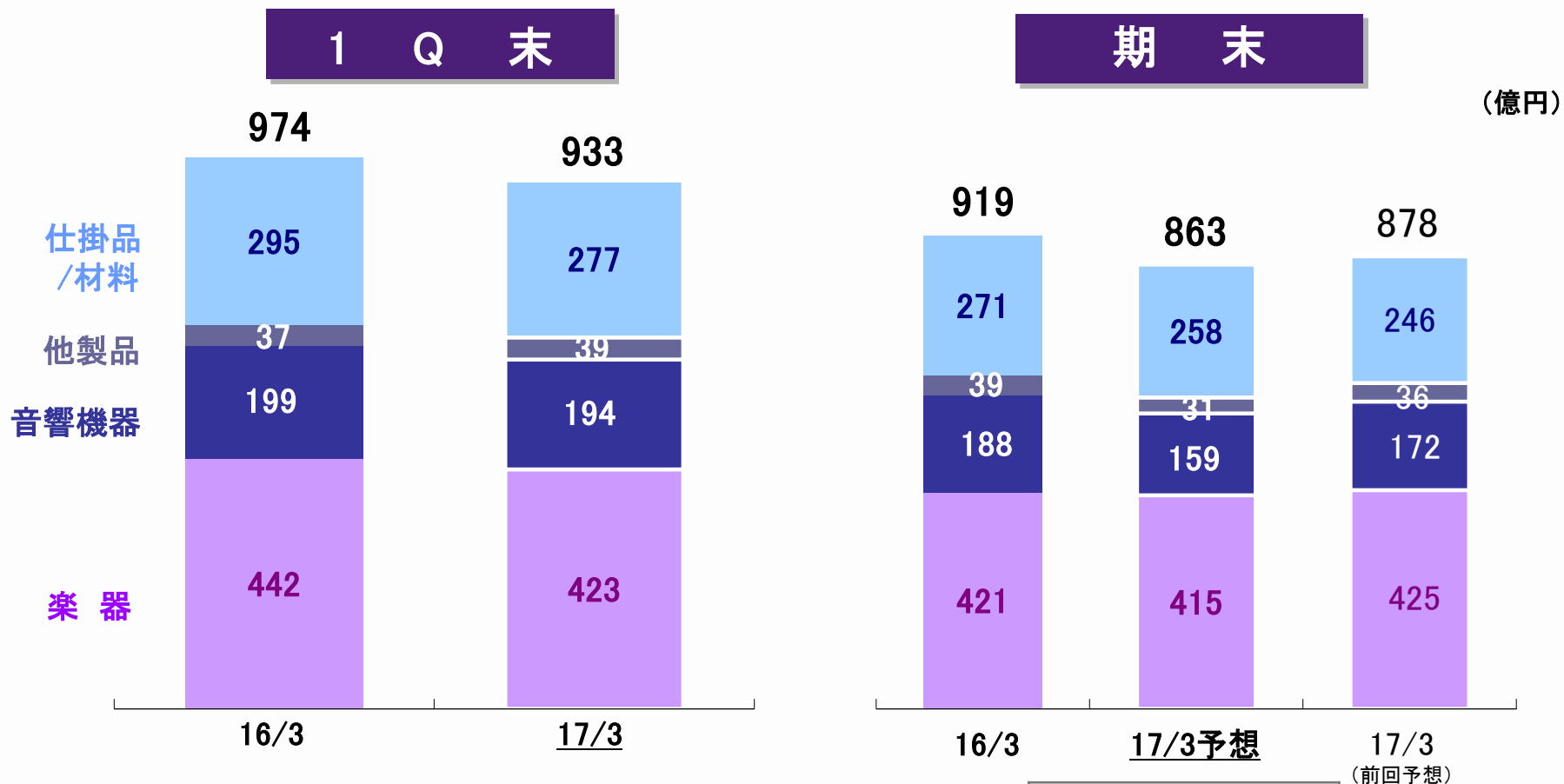
* 部品・装置売上は電子部品 自動車用内装部品 FA機器等の合計額です

棚卸資産



➤ 1Q末在庫は933億円

➤ 17/3期末在庫は863億円を想定



為替影響額 (億円)	
前期比較	▲149

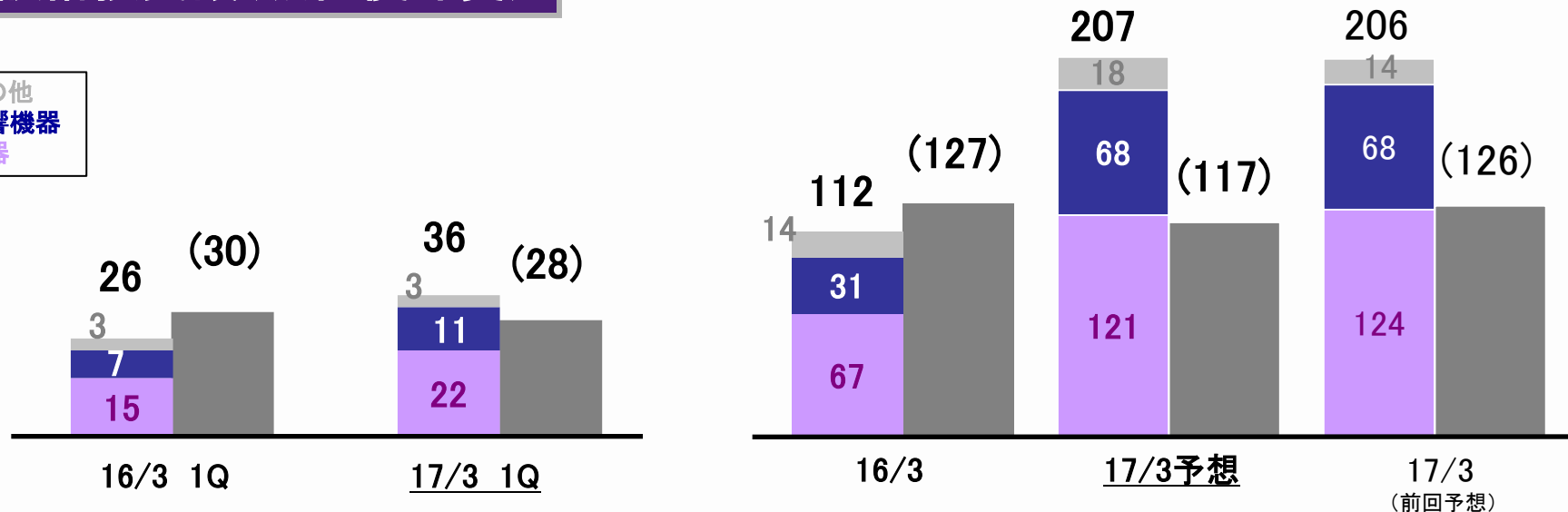
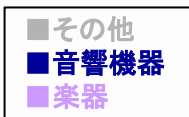
為替影響額 (億円)	
前期比較	▲49
前回予想比較	▲33

設備投資額・減価償却費/研究開発費

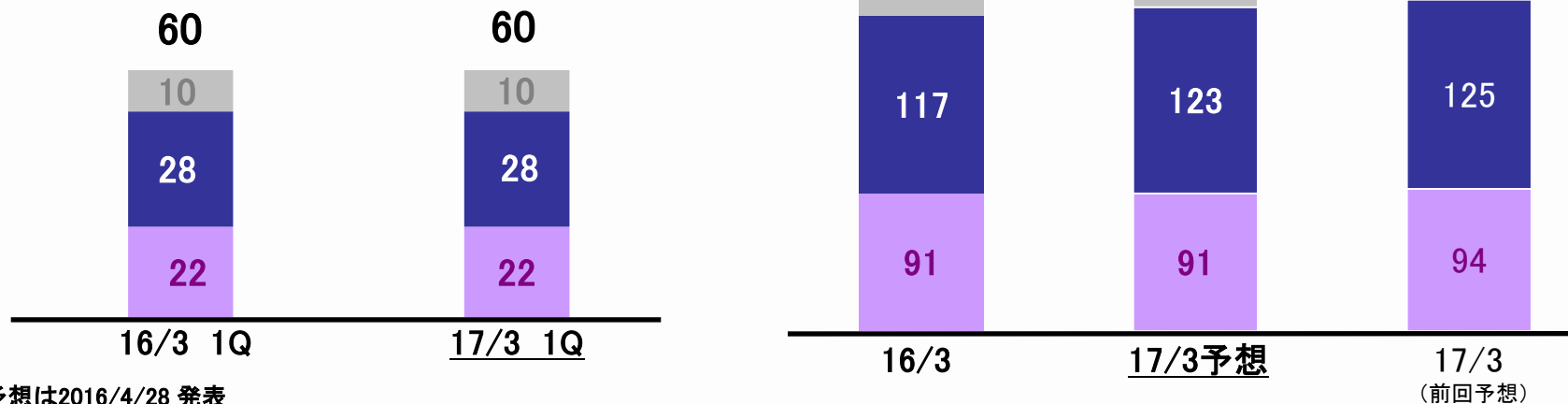


設備投資額(減価償却費)

(億円)



研究開発費



● 前回予想は2016/4/28 発表

貸借対照表



(億円)

	1Q末			期末予想		
	15/6末	16/6末	増減	16/3末	17/3末	増減
現預金	843	847	+4	882	951	+69
売上債権	548	450	▲98	478	475	▲3
棚卸資産	974	933	▲41	919	863	▲56
他流動資産	199	231	+32	272	201	▲71
固定資産	2,734	1,952	▲782	2,146	2,057	▲89
資産計	5,298	4,413	▲885	4,697	4,547	▲150
仕入債務	256	189	▲67	194	204	+10
借入金	160	141	▲19	85	105	+20
他負債	1,391	1,101	▲290	1,379	1,133	▲246
純資産計	3,491	2,982	▲509	3,039	3,105	+66
負債純資産計	5,298	4,413	▲885	4,697	4,547	▲150

付属資料

2017/3期 1Q営業外損益、特別損益



(億円)	16/3 1Q	17/3 1Q	17/3 1Q前回予想
営業外損益			
金融収支	4	4	2
その他	▲8	▲7	▲2
計	▲4	▲3	0
特別損益			
固定資産処分損益	▲1	2	▲1
その他	▲1	▲4	1
計	▲2	▲2	0
法人税他			
法人税等	20	22	25
法人税等調整額	1	▲135	▲135
非支配株主に帰属する損益	▲1	1	
計	20	▲112	▲110

2017/3期 通期営業外損益、特別損益



(億円)	16/3 通期	17/3 通期予想	17/3 通期前回予想
営業外損益			
金融収支	27	36	33
その他	▲25	▲36	▲33
計	2	0	0
特別損益			
固定資産処分損益	83	0	▲2
その他	▲76	0	2
計	7	0	0
法人税他			
法人税等	95	103	99
法人税等調整額	▲6	▲139	▲135
非支配株主に帰属する損益	1	1	1
計	90	▲35	▲35

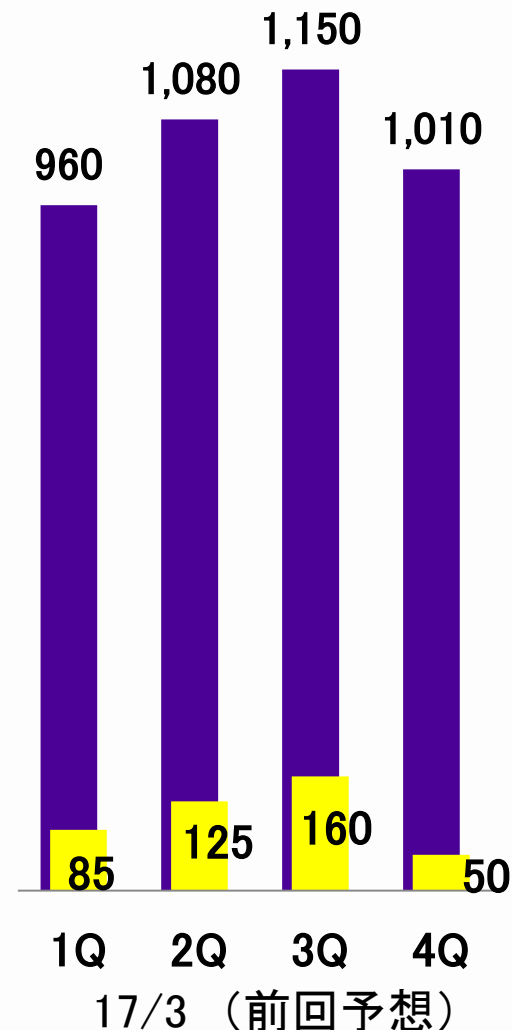
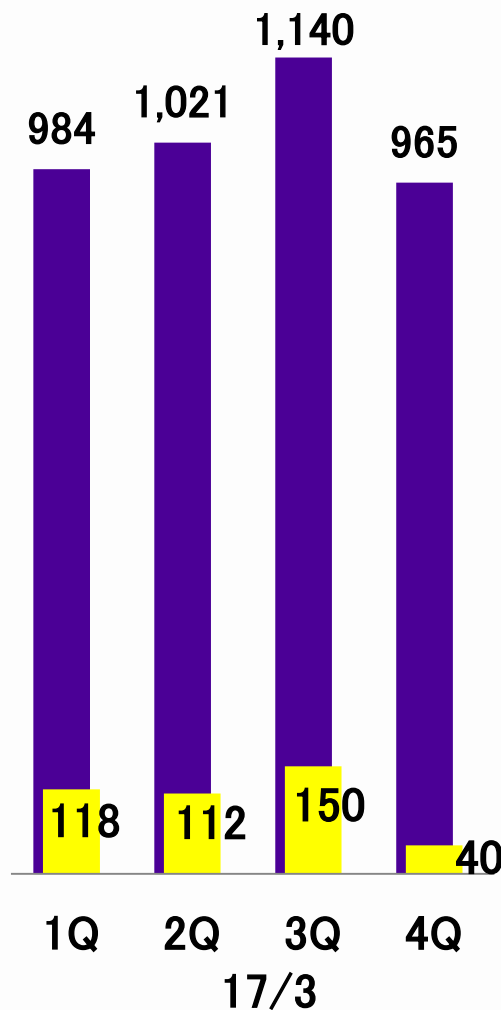
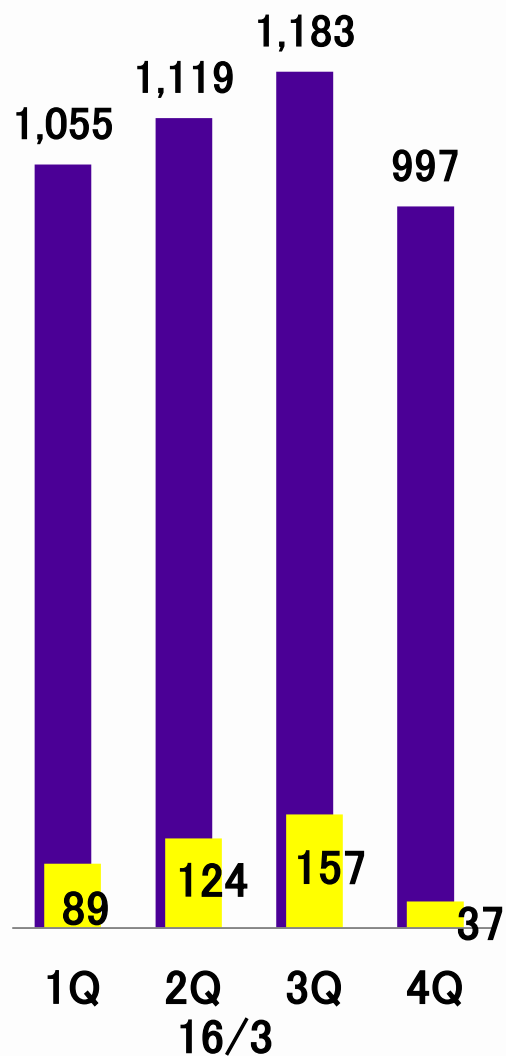
遊休資産売却 90
その他 ▲7

のれん一時償却
Line 6 ▲45
Revolabs ▲23
固定資産減損 ▲8

四半期別売上高／営業利益



(億円)



売上高(通期)	4,355
営業利益(通期)	407

売上高(通期)	4,110
営業利益(通期)	420

売上高(通期)	4,200
営業利益(通期)	420

●前回予想は2016/4/28 発表

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。